



『原発事故と放射線のリスク学』著者インタビュー

リスクを選択し、

受容する生き方を考える

福島原発事故発生から三年。

リスク評価を研究してきた著者がリスクを選ぶ生き方を提案する。

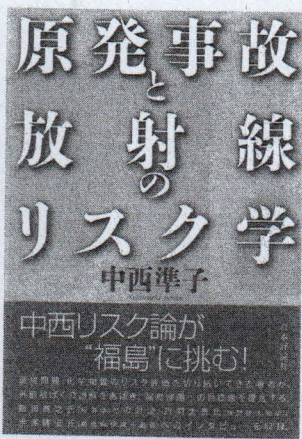
独立行政法人産業技術総合研究所 フェロー

中西準子



なかにし・じゅんこ

1938年、中国大連市生まれ。工学博士。横浜国立大学名誉教授。61年、横浜国立大学工学部化学工業科卒業。67年、東京大学大学院工学系博士課程修了。東京大学環境安全研究センター教授、横浜国立大学環境科学研究センター教授、独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門長を経て、現在に至る。紫綬褒章受章(2003)、文化功労者(10)、瑞宝重光章受章(13)。著書に『環境リスク学』(日本評論社)、『環境リスク論』(岩波書店)、『リスクと向きあう』(中央公論新社)などがある。



近著『原発事故と放射線のリスク学』(日本評論社)

リスクトレードオフの視点を持つ

私は長年にわたり、化学物質のリスク評価を研究してきました。

動機
という
トレード
くそうと
て、最初の
いつぶして
います。
私たちは、一
合うとき、そこにな
フィット(便益)があ
クと付き合ってい

文明
2014年6月号
30~33頁